

貯 法：室温保存
有効期間：3年

	承認番号	販売開始
カプセル1mg	20500AMZ00144	1993年8月
カプセル2mg	20500AMZ00145	1993年8月

アレルギー性疾患治療剤

日本薬局方 エメダスチンフマル酸塩徐放カプセル

レミカット[®]カプセル 1mg

レミカット[®]カプセル 2mg

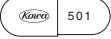
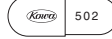
REMICUT[®] CAPSULES 1mg・2mg

3. 組成・性状

3.1 組成

販 売 名	レミカットカプセル1mg	レミカットカプセル2mg
有 効 成 分	1カプセル中 エメダスチンフマル酸塩 1mg	1カプセル中 エメダスチンフマル酸塩 2mg
添 加 剤	トウモロコシデンプン、精製白糖球状顆粒、ヒドロキシ プロピルセルロース、エチルセルロース、白糖、ステア リン酸Mg (カプセル本体) ラウリル硫酸Na、ゼラチン、酸化チタン	

3.2 製剤の性状

販 売 名	レミカットカプセル1mg	レミカットカプセル2mg
性 状	白色不透明の硬カプセル剤（キャップ：白、ボディ：白） で、内容物は白色の徐放性顆粒である。	
外 形		
	直径5.3mm、長さ14.5mm、重量195mg	
識別コード		

4. 効能又は効果

- アレルギー性鼻炎
- じん麻疹
- 湿疹・皮膚炎、皮膚そう痒症、痒疹

6. 用法及び用量

通常、成人にはエメダスチンフマル酸塩として1回1～2mgを1
日2回、朝食後及び就寝前に経口投与する。

7. 用法及び用量に関連する注意

高齢者では、副作用の発現に注意し、1回1mgから投与するな
どの配慮をすること。[9.8参照]

8. 重要な基本的注意

- 8.1 眠気を催すことがあるので、本剤投与中の患者には自動車の
運転等危険を伴う機械の操作には従事させないよう十分注意す
ること。更に、日常生活に支障がみられる場合があるので、本
剤投与に際してはこのことを患者に十分説明しておくこと。
- 8.2 4mg/日投与は、2mg/日投与に比して高度の眠気を惹起する
可能性が高いので留意すること。
- 8.3 本剤を季節性の患者に投与する場合は、好発季節を考えて、
その直前から投与を開始し、好発季節終了時まで続けることが
望ましい。

9. 特定の背景を有する患者に関する注意

9.1 合併症・既往歴等のある患者

9.1.1 長期ステロイド療法を受けている患者

本剤投与によりステロイドの減量を図る場合には十分な管理下
で徐々に行うこと。

9.3 肝機能障害患者

9.3.1 肝機能障害又はその既往歴のある患者

肝機能異常があらわれるおそれがある。

9.5 妊婦

妊婦又は妊娠している可能性のある女性には、治療上の有益性
が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。妊娠
ラットにおいて胎児中への移行が認められている¹⁾。

9.6 授乳婦

治療上の有益性及び母乳栄養の有益性を考慮し、授乳の継続又
は中止を検討すること。授乳期ラットにおいて乳汁中への移行
が認められている¹⁾。

9.7 小児等

小児等を対象とした有効性及び安全性を指標とした臨床試験は
実施していない。

9.8 高齢者

一般に生理機能が低下している。[7.参照]

10. 相互作用

10.2 併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
向精神薬 鎮静剤 催眠剤等 抗ヒスタミン剤	相互に作用を増強するお それがある。	本剤の中枢神経抑制 作用により、作用が 増強されると考えら れる。
アルコール	本剤の中枢神経系での副 作用（主に眠気）を増強 するおそれがある。	

11. 副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、
異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行
うこと。

11.2 その他の副作用

	5～10%未満	0.1～5%未満	0.1%未満	頻度不明
精 神 神 経 系	眠気	倦怠・脱力感、 頭痛・頭重感、 頭がボーッと する、ふらつき	しびれ感、耳 鳴、こわばり、 皮膚感覚異常	舌のしびれ、 一過性健忘
消化器		口渇、腹痛	悪心・嘔吐、食 欲不振、胃部不 快感、胃もたれ 感、腹部膨満 感、下痢、便秘	
循環器				動悸、血圧 上昇
過敏症			発疹、そう痒	
血 液			白血球減少、血 小板減少	
肝 臓		AST上昇、ALT 上昇、LDH上昇、 γ-GTP上昇	総ビリルビン 上昇、A1-P上 昇、肝機能異常	黄疸
腎 臓			尿蛋白、尿潜 血、血尿、頻尿、 尿量減少	
眼			眼のしょぼしょ ぼ感、眼痛	
その他		浮腫、苦味、鼻 乾燥	息苦しさ、月 経異常、胸痛、 ほてり	

注）発現頻度は使用成績調査を含む。なお、男女別にみると女性の副作
用症状発現率が高かった。

12. 臨床検査結果に及ぼす影響

本剤はアレルギー皮内反応を抑制するため、アレルギー皮内反
応検査を実施する前は本剤を投与しないこと。

14. 適用上の注意

14.1 薬剤交付時の注意

- 14.1.1 本剤は徐放性製剤であるため、薬剤をかみ砕かないで服
用させること。

14.1.2 PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することがある。

16. 薬物動態

16.1 血中濃度

16.1.1 単回投与

健康成人5例に本剤（エメダスチンフマル酸塩として2mg）を食後単回経口投与した場合、エメダスチンの最高血漿中濃度は1.26ng/mL、最高血漿中濃度到達時間は3.1時間、消失半減期は7.0時間であった²⁾。

16.1.2 反復投与

健康成人5例に本剤（エメダスチンフマル酸塩として2mg）を1日2回14日間反復経口投与した場合、血漿中濃度は5回目で定常状態に達し、定常状態における平均最低血漿中濃度は0.96ng/mL、平均最高血漿中濃度は1.87ng/mLであった²⁾。

16.2 吸収

ラットに経口投与された¹⁴C-エメダスチンフマル酸塩は小腸から速やかに、かつほぼ完全に吸収された³⁾。

16.3 分布

16.3.1 体組織への分布

ラットに経口投与された¹⁴C-エメダスチンフマル酸塩は特に肝臓及び腎臓に高い分布を認めたが、中枢系への移行は低かった⁴⁾。

16.3.2 血清蛋白結合率

ヒト血清に¹⁴C-エメダスチンフマル酸塩0.1μMを添加した*in vitro*の検討で、エメダスチンフマル酸塩の血清蛋白結合率は64.8%であった（平衡透析法）。

16.4 代謝

健康成人に経口投与したときのエメダスチンの主代謝経路はベンズイミダゾール環の水酸化とそれに引き続く抱合化であった⁵⁾。また、エメダスチンは主に肝臓において代謝された^{6)、7)}（ラット）。

16.5 排泄

健康成人5例に本剤（エメダスチンフマル酸塩として2mg）を食後単回経口投与した場合、投与後24時間までに尿中へ排泄された未変化体及び代謝物の合計は投与量の約44.1%であった。未変化体は投与量の3.6%を示した^{2)、5)}。なお尿中への排泄率は、ラットで約30%、モルモットで約40%、イスで約70%であり、ラットにおいて胆汁中排泄及び腸肝循環が認められた^{3)、8)}。

17. 臨床成績

17.1 有効性及び安全性に関する試験

17.1.1 国内臨床試験

アレルギー性鼻炎、じん麻疹（主に慢性）、湿疹・皮膚炎、皮膚そう痒症、痒疹患者958例を対象に、本剤を1日1～4mg^(注1)、7～93日間投与した臨床試験（二重盲検比較試験を含む）の成績は以下のとおりである。また、アレルギー性鼻炎、じん麻疹を対象とした二重盲検比較試験において本剤の有用性が認められた^{9)~12)}。

表 対象疾患別の改善率

対象疾患名	改善率 ^(注2)	
	中等度改善以上	軽度改善以上
アレルギー性鼻炎	43.5%（111/255例）	83.1%（212/255例）
じん麻疹（主に慢性）	69.6%（272/391例）	85.4%（334/391例）
湿疹・皮膚炎	71.0%（115/162例）	88.3%（143/162例）
皮膚そう痒症	72.5%（66/91例）	91.2%（83/91例）
痒疹	74.6%（44/59例）	93.2%（55/59例）

注1) 本剤の承認された用法及び用量は、「通常、成人にはエメダスチンフマル酸塩として1回1～2mgを1日2回、朝食後及び就寝前に経口投与する。」である。

注2) アレルギー性鼻炎、湿疹・皮膚炎、皮膚そう痒症、痒疹：全般改善度を5段階で評価
じん麻疹：全般改善度を5段階又は7段階で評価

18. 薬効薬理

18.1 作用機序

ヒスタミンH₁受容体遮断作用と共に、抗原抗体反応に伴って起こる肥満細胞からのヒスタミンやロイコトリエンC₄等のケミカルメディエーターの遊離を抑制することにより、アレルギー症状を緩和する。

18.2 抗アレルギー作用

モルモットでのアナフィラキシーショック及びモルモットやラットでのpassive cutaneous anaphylaxisを経口投与で抑制した^{13)、14)}。ラットでの実験的アレルギー性鼻炎を経口投与で抑制した¹⁵⁾。

18.3 抗ヒスタミン作用

ヒスタミンによるモルモット摘出回腸収縮反応を抑制した（*in vitro*）。モルモットでのヒスタミン致死及び血管透過性亢進に対して抑制作用を示した¹⁶⁾。

18.4 抗原抗体反応によるケミカルメディエーター遊離抑制作用

抗原抗体反応によるラット腹腔肥満細胞からのヒスタミン遊離反応¹³⁾、並びにヒト末梢白血球及び肺組織からのヒスタミン及びロイコトリエンC₄遊離を濃度依存的に抑制した¹⁷⁾（*in vitro*）。モルモットpassive peritoneal anaphylaxisによるヒスタミン遊離に対して抑制作用を示した¹⁸⁾。

18.5 サブスタンスPによるヒスタミン遊離に対する抑制作用

サブスタンスPによるラット腹腔肥満細胞からのヒスタミン遊離を低濃度から抑制した（*in vitro*）。このヒスタミン遊離抑制作用は、細胞内Ca貯蔵部位からのCa²⁺放出抑制作用及び細胞内へのCa²⁺の流入抑制作用による¹⁸⁾。

18.6 好酸球遊走阻止及び浸潤抑制作用

PAFによるモルモットの好酸球遊走を10⁻⁹M以上で濃度依存的に抑制した¹⁹⁾（*in vitro*）。PAF、ロイコトリエンB₄によるヒトの好酸球遊走を10⁻⁸M以上で濃度依存的に抑制した²⁰⁾（*in vitro*）。モルモット鼻アレルギーモデルにおいて、鼻粘膜への好酸球浸潤を経口投与で抑制した²¹⁾。

19. 有効成分に関する理化学的知見

一般的名称：エメダスチンフマル酸塩(Emedastine Fumarate)

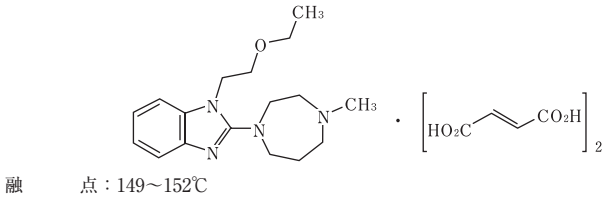
化 学 名：1-(2-Ethoxyethyl)-2-(4-methyl-1,4-diazepan-1-yl)-1*H*-benzimidazole difumarate

分 子 式：C₁₇H₂₆N₄O・2C₄H₃O₄

分 子 量：534.56

性 状：白色～微黄色の結晶性の粉末である。水に溶けやすく、メタノールにやや溶けやすく、エタノール（99.5）にやや溶けにくく、酢酸（100）に溶けにくい。結晶多形が認められる。

化学構造式：



*22. 包装

〈レミカットカプセル1mg〉

PTP：100カプセル（10カプセル×10）、500カプセル（10カプセル×50）

〈レミカットカプセル2mg〉

PTP：100カプセル（10カプセル×10）、500カプセル（10カプセル×50）

23. 主要文献

- 1) 酒井孝範他.：薬物動態. 1987; 2: 147-54.
- 2) 中島重徳他.：基礎と臨床. 1989; 23: 5431-40.
- 3) 酒井孝範他.：薬物動態. 1987; 2: 123-31.
- 4) 酒井孝範他.：薬物動態. 1987; 2: 133-45.
- 5) 浜田司他.：薬物動態. 1990; 5: 871-81.
- 6) 栗田則男他.：薬学雑誌. 1989; 109: 318-28.
- 7) 和田幸雄他.：薬物動態. 1989; 4: 459-70.
- 8) 和田幸雄他.：薬物動態. 1989; 4: 471-80.
- 9) 奥田稔他.：耳鼻咽喉科展望. 1990; 33（補2）：113-31.
- 10) 奥田稔他.：耳鼻咽喉科展望. 1990; 33（補4）：543-65.
- 11) 石橋康正他.：臨床医薬. 1989; 5: 2291-309.
- 12) 石橋康正他.：臨床医薬. 1994; 10: 1919-35.
- 13) Fukuda T, et al.：Arzneimittelforschung. 1984; 34: 805-10.
- 14) 齊藤忠之他.：日本薬理学雑誌. 1987; 89: 55-62.
- 15) 齊藤忠之他.：基礎と臨床. 1989; 23: 3145-7.
- 16) Fukuda T, et al.：Arzneimittelforschung. 1984; 34: 801-5.
- 17) Nishimura N, et al.：Immunopharmacol Immunotoxicol. 1987; 9: 511-21.
- 18) Saito T, et al.：Jpn J Pharmacol. 1993; 62: 137-43.
- 19) 松田直美他.：薬理と治療. 1993; 21: 1475-8.
- 20) 齊藤忠之他.：西日本皮膚科. 1993; 55: 1081-5.
- 21) 成田慎一郎他.：耳鼻咽喉科臨床. 1996; 89: 645-9.

24. 文献請求先及び問い合わせ先

興和株式会社 くすり相談センター

〒103-8433 東京都中央区日本橋本町三丁目4-14

電話 0120-508-514

03-3279-7587

受付時間 9:00～17:00（土・日・祝日・弊社休日を除く）

26. 製造販売業者等

26.1 製造販売元

興 和 株 式 有 限 公 司 東京都中央区日本橋本町三丁目4-14